



1

1 ダム北側から堤体とダム湖を望む。右側の山が伝説の残る霧山 2 スライドゲート2門を持つ 3 霧山の奥には「きり山 大正十四年三月十六日」と刻まれた岩がある（写真提供：南股地区振興会）



2



3

奥州遺産

——ときを越え

受け継がれるもの——

第97回

衣川2号ダム(川内ダム)

Ⅱ 衣川上河内Ⅱ

衣川の5つの防災ダムは、衣川・前沢・平泉町の農地・人家などを洪水被害から守る目的で築造され、総貯水容量が大きい順に名前が付けられている。その一つである同容量2369千立方メートルの「2号」がこの通称川内ダムだ。昭和47年に完成し、ダム形式としては珍しい重力式コンクリートとロックフィルの複合型である。

ダム湖の南に見える「霧山」には伝説が残されている。この山には平泉の達谷まで続く長さ8千メートルの洞窟があり、霧山の高丸と達谷の悪路王がこの洞窟を根城とし、征夷大將軍坂上田村麻呂を苦しめたという。洞窟の奥には十畳ほどの広間があったというが、現在では洞窟の入口も確認が難しい状態となっている。

春は桜、秋は紅葉と見る人を楽しませてくれる衣川2号ダム。「霧につつまれた洞窟」に思いをはせながら見るダムはまた別な表情を見せる。

広 告